

トマス・ウェイド略年譜

2003252003 伊藤 千弘

中国語の発音をラテン文字によって表す「ウェイド式」を発明したトマス・フランシス・ウェイド(Thomas Francis Wade, 1818-1895)は、西洋の中国語教育に飛躍的な発展をもたらした人物である。英語話者を対象とする中国語の教本がほとんど存在していなかった時代に、彼は『尋津録』(1859)、『語言自邇集』(1867)、『文件自邇集』(1867)などの教科書を続々と世に送り出した。それらの成立事情や基礎方言及び学習体系を扱った研究は数多いが、ウェイドが英国の外交官としてアヘン戦争以後約40年にわたって英中外交に身を捧げてきた人物であることはあまり知られていない。本稿は、彼の外交官としての一生に光を当てることを目的として、James C. Cooley, Jr. *T. F. WADE IN CHINA—Pioneer in Global Diplomacy 1842-1882—* (Monographies du T'OUNG PAO vol. XI, Leiden: E. J. Brill, 1981) に基づき、その生涯をまとめてみたものである。

<略年譜>

- | | | |
|------------|-------|------------------------------------|
| 1818年8月25日 | (0歳) | ロンドンで生まれる。 |
| 1842年6月2日 | (23歳) | アヘン戦争末期に投入された第98連隊の士官として香港に到着。 |
| 1842年8月29日 | (24歳) | 南京条約締結。 |
| 1845年 | (26歳) | イギリス全権デーヴィスに見習い通訳として雇われる。 |
| 1846年3月 | (27歳) | 香港高等法院の定員外通訳に昇進。 |
| 1848年 | (29歳) | 一等通訳に昇進。 |
| 1853年7月 | (34歳) | 上海着任。 |
| 1854年 | (35歳) | 上海関税局監査に任命される。 |
| 1855年6月 | (36歳) | 上海関税局監査を辞職。 |
| 1856年10月8日 | (38歳) | アロー号事件勃発。 |
| 1857年7月 | (38歳) | エルギン卿の要請により通訳兼中国問題特別顧問となる。 |
| 1858年6月26日 | (39歳) | 天津条約締結。 |
| 1859年4月 | (40歳) | フレデリック・ブルースが全権公使となり、中国担当書記官に任命される。 |

1860年10月24日	(42歳)	北京条約締結。
1861年	(42歳)	北京着任。總理衙門が設置される。
1864年6月	(45歳)	英国に一時帰国。その後北京で代理公使に任命される。
1865年12月	(47歳)	オールコックが公使に着任。
1866年11月	(48歳)	中国語学習プログラムを実行するため、北京を離れ上海へ。
1867年12月	(49歳)	1年間の休暇を英国で過ごす。
1869年5月	(50歳)	北京へ戻る。
1870年6月21日	(51歳)	天津大虐殺勃発。
1871年8月	(52歳)	全権公使に任命される。
1874年	(55歳)	日本軍が台湾に軍事出兵を行う。(台湾出兵)
1875年	(56歳)	マーガリー事件勃発。(雲南問題)
1876年9月13日	(58歳)	芝罘協定締結。
1883年	(65歳)	退職し帰国。
1888年	(69歳)	ケンブリッジ大学に初代中国語教授として迎えらる。
1895年7月31日	(76歳)	他界。

<参考文献>

高田時雄 (2001) 「トマス・ウェイドと北京語の勝利」『シンポジウム西洋近代と中国』京都大学学術出版会.

内田慶市 (2001) 『近代における東西言語文化接触の研究』関西大学出版部.